

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の目につく場所に理念を掲示し、全職員が理念を共有し実践している。	開設時に策定した理念は、事業所の基本的支援姿勢として職員はじめ新人職員が共有し、理解を深めている。実践については折に触れ研修や会議等で振り返り、理念に沿った支援を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩時の挨拶や地域のごみ拾い等に参加し日常的な交流を図っている。	新型コロナウイルス感染防止のため、以前のような活発な地域交流は制限している。回覧板の受け渡しや利用者との散歩時を通して地域情報を得たり挨拶を交わしている。住民の方々から花や野菜を頂くこともあり、自然体での関わりが継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ禍の為行っていないが、認知症についての勉強会への参加を呼び掛けたり、行事の際に介護相談コーナーを設ける等、地域のかたの相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、書面での開催が続いているが、活動等を報告し、アンケート回答の形でご意見等をいただきサービス向上に活かしている。	コロナ禍での運営推進会議は、2ヵ月毎に職員のみで実施している。定例報告の他、感染症対策やヒヤリハット等を書面にまとめ、事業所の通信を添えて推進委員に配布、事業の透明化を図っている。委員から具体的な意見や提案、労いの言葉を受け、運営に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍の感染防止の取り組み方等、行政の情報を活かし必要に応じ相談しながら協力関係を築くよう努めている。	行政とは、コロナ感染症事案を中心に、情報交換や指示を得て、現状課題の取り組みに協働している。また、介護認定更新時や困難事例等でも行政職員と良好な関係を築き、適切な支援に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や勉強会を活用し、身体拘束について正しい理解を全職員が共有し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化に向けた指針をもとに、定期的に委員会と勉強会を開催し、拘束や抑圧感のないケアに取り組んでいる。ケアの疑問点や、利用者の何気ない言動の理由や環境要因を話し合い、ケア方法や言葉の言い換えを具合的に学んでいる。気になる対応では職員同士が互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍の為、外部の講習会参加の機会は中々設けることができないがオンライン研修を活用し、事業所内での虐待防止に関する勉強会において正しい認識を共有して全職員が防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者もおり、日常業務と並行しながら話し合い活用いただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約またはかいての際は利用者や家族に十分説明を行い、不安、疑問点を尋ね理解納得して頂き安心して入居いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族へのアンケートを実施し、ご意見を運営に反映させている。また、ご家族とは普段から電話等でも気軽にご意見を伺えるような関係を築くよう努めている。	家族には、ブログ発信や毎月の通信、個別の近況報告や運営推進会議録の送付のほか、面会時や諸連絡の際、アンケートでも意見を聞く機会を作っている。最近では、面会対応やケアに関する事柄で家族の要望を受けとめ、運営やサービスへの反映に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際、職員からの提案を皆で検討したり、定期的に個人面談の機会を設け直接意見や提案を聞き、話し合い運営に反映させている。	職員が意見を述べる機会は日常的にあり、提案等は検討し、職員は実践するプロセスを通して積極的に運営に関わっている。管理者は随時職員に声を掛け、運営者による個人面談、新人職員には頻度の面談で意見表出を促している。希望のオンライン研修も活用し職員の向上心を支えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し給与等への反映等の評価をしている。また、やりがいをもって働ける職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成が質の高いケアつながると考え、ケア計画への参加の機会の確保		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、研修会参加や現状ではコロナ禍の対応、行政からの通知等情報を集めている。また、北区管理者連絡会、地域の同業者との交流の場に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始時は本人も不安な事、困っていることに耳を傾け安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事、不安な事、小さなことにも耳を傾け良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時早々に課題分析を行いケアプランを作成し、短期間でモニタリングを繰り返す中で、必要な支援を見極め、的確な対応に繋げるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で一緒にレクをしたり、隣に座り話を聞いたりする中で、本人に合った軽作業を一緒に行うことで支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いを本人に伝えたり、家族と職員が共に本人を支えていることを理解して安心して生活が出来るよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出や面会が制限されているが、電話や手紙等で関係が途切れないよう支援している。	外部との自由な交流は自粛中だが、家族との面会は窓越しや玄関先、時間の制限内で行っている。親しい友人の方々とは電話や手紙の交換を支援し、家族の了解の下で玄関先対面の場合も考慮している。訪問美容室も状況を見極めて利用を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の趣味や話題を把握し職員が仲立ち役で入居者同士の良好な関係が築けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族と連絡をとり、必要に応じて相談や支援に努めいつでも連絡のできる関係を築き支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや希望に耳を傾け把握するよう努めている。困難な場合は家族からの聞き取りをもとに本人本位の立場になって検討している。	本人の理解や関係性がより深まるよう、担当職員を置いている。食べたいもの、したいことなど自由に表現している利用者が多く、表情や細かな仕草でも思いの把握に努めている。関わりの中で聞き取った終末期の過ごし方も含め、意向等は記録に残し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方、生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄、入浴、食事量を記録し心身状態の把握し、些細な変化に気が付けるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を把握し、3～6か月毎にケアプランを作成し1か月毎にモニタリングを行い、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画の実践状況は、毎月担当職員のモニタリングをもとに職員間で確認している。定期的見直しでは、本人、家族の意向を踏まえ、カンファレンスを経て、全職員と医療の視点を集約し、新計画を立案している。変化の兆しの把握が速やかに行われ、現状に即し実践可能な計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録記入により職員間で情報を共有し、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに対応しながら支援やサービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため買い物等を楽しむことは中止しているが、ホーム周辺や公園への散歩で楽しみや地域交流できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と良好な関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している。	医療支援は月2回の内科の訪問診療を主に、家族が同行する専門科受診では、利用者の状態を記した手紙を渡しスムーズに受診できるようにしている。歯科医の往診と口腔衛生管理の指導、複数看護職員の配置など、医療面の安心体制を整えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で体調の変化等の情報を看護師に伝え相談し、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、医療機関と情報交換や相談をしながら安心して治療を受け早期に退院できるような関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について入居時を含め早い段階から本人、家族の意向把握に努めている。また、事業所のできることを十分に説明しながら、かかりつけ医らと支援に取り組んでいる。	終末期の在り方は、入居時や必要の都度、場合により主治医を交えて話し合い、関係者間で方針を共有している。利用者の多くは事業所での終末を望んでおり、家族の協力と医療連携を整えている。長年の看取りケアの経験と技術の下、その人らしく過ごせるよう利用者の思いに寄り添った終末を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が会議や勉強会で事故発生時の対応の訓練を行い実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を行っている。火災だけではなく地震や風水害に備えた訓練も行っている。	毎月、出火場所やケア状況を変え、利用者参加で避難訓練を行っている。特に人手の少ない夜間帯を中心に、安全かつ迅速に対応できるよう訓練を重ねている。また、年1回地震や水害に備えた訓練、消防設備業者による点検と消火器の使用を再確認している。各種備蓄や備品を用意し、さらなる防災機器の検討など、災害対策強化に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しながら誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	職員の利用者に対する接遇は明るく穏やかで、理念を基本線に、本人重視の視点がケアに反映できるよう努めている。プライバシーでは、排泄や入浴ケアの際に羞恥心に配慮した声掛け、支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを大切に、希望を表現したり出来るような語りかけを行い、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員優先ではなく一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った1日を過ごすよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を配慮し栄養バランスを考えた献立となっている。本人の食べる意欲を大切にしながらゆっくりと食事が出来るよう支援している。食事が楽しみになるよう一緒に準備をしたり、片付けのお手伝いをしている。	食事面でも感染症防止の徹底の上、利用者の楽しみや活躍できる場を工夫し、一緒に食事作業を行っている。バランスの取れた職員作成の献立で、様々な利用者の嗜好や希望、状況に対応し、時には鍋やお好み焼きを食卓で作り、誕生日は好きな料理で、季節行事は豪華弁当を取り寄せている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や習慣に応じ一日の水分量や栄養が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケア促したりお手伝いをし、口腔内を清潔に保つよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや習慣を活かし、トイレでの排泄や排せつの自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本に排泄状況を把握し、自立した排泄が継続できるよう支援している。失敗を少なくするための誘導、適切な衛生用品や下着類の選択、ポータブルトイレの使用など、都度個別に検討している。本人の負担感や苦痛に即してベット上で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴スケジュールを組み清潔を保つよう支援しているが、その日の体調やご本人のタイミングに合わせて入浴できるよう個々に沿った支援をしている。	利用者それぞれが週2～3回は入浴できるよう支援している。同性介助の意向に沿い、湯舟やシャワー浴の希望など、体調を見ながら気持ち良く寛いで入浴できるよう、個別の誘い方や介助方法で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて休息をとったり、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の目的や副作用、用法を把握し服薬の支援や症状の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割や嗜好品、楽しみを通して張り合いや喜びのある日常を過ごせるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望や状況にそって散歩に出かけている。現在はコロナ禍のため外出支援が難しい状況だが、状況が改善したら以前のように買い物や外食に出かけられるよう支援したい。	日課の散歩は、希望を聞き少し遠回りしたり近隣の庭を眺めたりと、利用者個々の楽しみの時間になっている。ベンチで日光浴をしたり、少人数でのドライブも感染状況を見極め出掛けている。コロナ禍であるが閉じ籠らず、室内でも運動やレク活動で気分転換や機能の維持、低下予防に努力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて職員が同行し買い物したり、お金を使う機会をもてるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じ電話や手紙のやりとりを支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が居心地よく過ごせる場所となるように心地よい音楽をかけたり、温度湿度、換気に気を配り手作りの飾りや季節の花を飾るなど工夫をしている。	共用空間は、清掃や整理整頓が行き届き、利用者や車椅子走行でも自由に移動できる環境になっている。利用者は日中の殆どの時間をリビングで過ごし、それぞれの寛いだ居場所になっている。生花を飾り、職員と利用者手作りの季節の装飾を掲示し、温・湿度、換気にも十分に配慮され、快適で安らぎのある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にもフロアにはテレビソファを置き、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が慣れ親しんだ家具や飾りもの等を持ち込み心地よく過ごせる空間となるよう工夫している。	各居室にロッカーダンスやカーテンを設え、利用者や職員の負担が軽減できるよう介護用ベッドを配置している。自宅から使い慣れた調度類や家族写真、本人が製作した人形等が持ち込まれ、その人らしく安心、安全に過ごせる空間作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ヒヤリハットを活かし危険を排除し、安全で自立した生活ができるよう工夫している。		